

## 2 各教科における授業改善プラン

### (1) 国語科

#### 国語科の重点

- 1年 ①基本的な学習態度の定着 ②読書習慣の定着 ③言語・表現活動の充実 ④書く作業の増加  
 2年 ①意欲的な学習態度の定着 ②書く能力（漢字書き・作文）の定着 ③言語・表現活動の充実  
 3年 ①意欲的な学習態度の定着 ②書く能力（漢字書き・作文）の定着 ③言語活動の充実

現状分析（成果と課題）		授業改善プラン	
分析内容		指導上の課題	改善案
1年	<p>小学校までに身に付けてきた学力の分析が主となります。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>観点別ですとどの領域もほぼ区の平均正答率と同程度ですが、「書く能力」と「読む能力」、「言語についての知識・理解・技能」がやや下回っており、「話す・聞く能力」は区、全国を上回っています。</li> <li>基礎は区平均を下回っており、活用は区平均を上回っています。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>①基本的な学習態度、習慣が定着していない生徒が一部います。</li> <li>②文章を丁寧に読み進める姿勢の弱い生徒がいます。特に論理的文章の読解に抵抗感を示す生徒が多くいます。</li> <li>③決められた量の文章を書けない、書くことに抵抗のある生徒が一部います。</li> <li>④語彙能力や漢字の書きに関して不十分な生徒が多いです。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>①基本的な学習態度、習慣の定着を図ります。（ノート作成、ワークシート記入の工夫）</li> <li>②朝読書等で読書の機会を設けます。授業の中で論理的文章の構成を示し、各構成をまとめていくことを通して読解力をつけていきます。</li> <li>③意見交流を通して感想文を頻繁に書くことを通して、抵抗をなくしていきます。</li> <li>④毎週漢字の小テストを行い、家庭学習の習慣を身につかせ、漢字を書く力をつけていきます。</li> </ul>
2年	<ul style="list-style-type: none"> <li>「教科の内容」については、「関心・意欲・態度」の観点のみ東京都平均を上回っています。</li> <li>特に「技能（書く）」の観点で東京都平均を大きく下回っています。</li> <li>「読み解く力に関する内容」については、「取り出す力」と「解決する力」は東京都平均を大幅に上回っていますが、「読みとる力」は大きく下回っています。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>①基本的な学習態度、習慣が定着していない生徒が見られます。</li> <li>②文法理解のための反復練習や、毎週の漢字テスト等、努力と忍耐、集中力が求められる学習に対して、抵抗感を示す生徒がいます。</li> <li>③自分の分からないところをそのままにしてしまう生徒や、解決する手段が分からない生徒がいます。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>①基本的な学習態度の定着を図り、学習意欲を育てます。（ノート作成、毎時間の目標設定）話を聞く時間とノート書く時間を分けます。</li> <li>②漢字、文法等小テストの実施機会を増やし、家庭学習を定着させていきます。</li> <li>③長期休業前に漢字の課題を示し、休業明けに学習コンテストを行います。</li> <li>④生徒同士の学び合いの時間を確保するため、意見交流、教え合いの機会を増やします。</li> </ul>
3年	<ul style="list-style-type: none"> <li>観点別にみると「国語に関する関心・意欲・態度」、「書く能力」、「読む能力」は区、全国平均を上回っています。</li> <li>話し合いの内容を聞き取る力が区平均を下回っています。</li> <li>特に漢字を書く力が区平均を下回っています。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>①基本的な学習態度、習慣が定着していない生徒が一部見られます。</li> <li>②口頭で伝えたことや話し合いで聞き取ることができない生徒がいます。</li> <li>③漢字の書きに課題がある生徒が数名います。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>①基本的な学習態度、習慣の定着を図ります。（ノート作成、ワークシート記入の工夫）</li> <li>②スピーチ、ディベート、集団討論等を実施して話を聞く姿勢や内容を聞き取る力をつけていきます。</li> <li>③長期休業前に漢字の課題を示し、休業明けに学習コンテストを行います。毎週漢字テストを行い、漢字の読み、書きの力をつけていきます。</li> </ul>

(2) 社会科

社会科の重点			
1年	①学習意欲の向上	②基礎学力の定着	③活用力の向上
2年	①学習意欲の向上	②基礎学力の定着	③応用力の向上
3年	①学習意欲の向上	②基礎学力の充実	③活用力の向上

現状分析（成果と課題）		授業改善プラン	
分析内容		指導上の課題	改善案
1年	<ul style="list-style-type: none"> <li>・小学校までに身に付けてきた学力の分析が主となります。</li> <li>・正答率は、区平均を下回っています。</li> <li>・領域別では、「我が国の農業や水産業」「我が国の歴史」「我が国の政治」で区平均を下回っています。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>①社会的事象についての意欲・関心・態度がやや不足しています。</li> <li>②社会的な思考・判断・表現が不足しています。</li> <li>③社会的事象についての知識・理解が不足しています。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>①基礎学習についての改善策               <ul style="list-style-type: none"> <li>・授業中の発問等の対話的な活動を通して、社会的事象への関心を高めます。</li> <li>・小テストや復習用の課題を提示し、反復学習の機会を確保させるとともに、補習を設定し、基礎的知識の習得を支援します。</li> <li>・机間巡視で個別指導の機会を増やします。</li> </ul> </li> <li>②思考・判断・表現の能力育成のための改善策               <ul style="list-style-type: none"> <li>・授業内で発問などの内容を工夫し、資料を活用したり、課題解決型の学習活動の機会を取り入れたりします。</li> <li>・定期考査において資料活用力や思考力・判断力・表現力を問う問題を計画的に出題し、思考力・判断力・表現力の向上に向けた課題意識をもたせます。</li> </ul> </li> </ul>
2年	<ul style="list-style-type: none"> <li>・正答率は、基礎は区平均値に近いです。活用の正答率は昨年度より上がりましたが、区平均は下回っています。</li> <li>・領域別では、世界の諸地域(北アメリカ)と中世の日本が区平均値を下回っています。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>①基礎的・基本的な知識習得のための反復学習が不足しています。</li> <li>②地理的分野では地図やグラフの読解力、歴史的分野では資料活用の技能が不足しています。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>①基礎・基本の習得に向けた改善策               <ul style="list-style-type: none"> <li>・小テストや復習用の課題を提示し、反復学習の機会を確保させるとともに、補習を設定し、基礎的知識の習得を支援します。</li> <li>・机間巡視で個別指導の機会を増やします。</li> </ul> </li> <li>②資料活用を目指す改善策               <ul style="list-style-type: none"> <li>・図表や資料の読み取りや考察の時間を十分に確保し、自らの言葉や文章で発表する機会を設けます。</li> <li>・定期考査において資料活用力を問う問題を計画的に出題し、資料活用力の向上に向けた課題意識をもたせます。</li> </ul> </li> </ul>
3年	<ul style="list-style-type: none"> <li>・正答率について、基礎は昨年度より上がりましたが、活用とともに区平均を下回っています。</li> <li>・領域別では、地理的分野の問題が区平均値を下回っています。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>①1・2年時の地理の基礎学力の定着が不十分です。</li> <li>②社会的な思考・判断・表現の能力と、資料活用の技能が不足しています。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>①基礎学力の定着に向けた改善策               <ul style="list-style-type: none"> <li>・夏季休業・冬期休業中の補習を実施し、1・2年時の復習を徹底、基礎的な知識・理解の充足を図ります。</li> </ul> </li> <li>②思考・判断の能力育成のための改善策               <ul style="list-style-type: none"> <li>・授業内で発問などの内容を工夫し、資料を活用したり、課題解決型の学習活動の機会を取り入れたりします。</li> <li>・定期考査において資料活用力や思考力・表現力を問う問題を計画的に出題し、資料活用力や思考力・表現力の向上に向けた課題意識をもたせます。</li> </ul> </li> </ul>

### (3) 数学科

#### 数学科の重点

- |    |          |             |            |
|----|----------|-------------|------------|
| 1年 | ①学習意欲の向上 | ②基礎学力の定着と向上 | ③活用力の定着と向上 |
| 2年 | ①学習意欲の向上 | ②基礎学力の定着と向上 | ③活用力の定着と向上 |
| 3年 | ①学習意欲の向上 | ②基礎学力の定着と向上 | ③活用力の定着と向上 |

現状分析（成果と課題）		授業改善プラン	
分析内容		指導上の課題	改善案
1年	<ul style="list-style-type: none"> <li>・小学校の学習内容は概ね目標値を上回っています。</li> <li>・強みは思考・判断力、表現力などの活用がよくできることです。学習アンケートでも意欲的な回答が多いです。</li> <li>・課題は基礎が弱いことで、意欲に比して計算の技能や図形の知識不足により正答できていないと考えられます。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>①苦手意識の克服 数学への苦手意識が強く、小数や分数の除法の計算や平面図形など基礎的な数学の知識・技能が身に付いていない生徒が一部います。</li> <li>②基礎・基本の定着 既習事項の復習や確認といった学習習慣が全体的に確立できていないため、基礎学力が定着しません。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>①各時間の学習内容を明確にし、関心・意欲を高める工夫をします。特に習熟度別指導の基礎クラスは、スモールステップの手だてを用意し、成就感をもたせるようにします。</li> <li>②繰り返しの学習を実施することにより復習の機会を設け、基礎学力の定着を図ります。定期考査前や夏休みには、必要に応じて補充学習をします。</li> </ul>
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・すべての観点で目標値を上回りましたが、区の平均を下回っています。</li> <li>・領域別では、数と式、図形で目標値を大きく上回っていますが、資料の活用では下回る結果になりました。</li> <li>・活用の正答率が昨年度に比べ大きく下がり、これは資料の活用を苦手とする生徒が多いことが原因と見られます。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>①苦手意識の克服 既習事項が身に付いていなく、苦手意識をもって授業に臨む生徒がいます。特に文章題は手をつけることができない生徒も多くいます。</li> <li>②基礎・基本の定着 既習事項の復習や確認といった学習習慣が全体的に確立できていないため、基礎学力が定着しません。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>①各時間の学習内容を明確にし、関心・意欲を高める工夫をします。特に習熟度別指導の基礎クラスは、スモールステップの手だてを用意し、成就感をもたせるようにします。</li> <li>②繰り返し学習を実施することにより復習の機会を設け、基礎学力の定着を図ります。小テストをこまめに行い、必要に応じて補習をします。</li> </ul>
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・すべての観点で区及び全国の平均を下回っています。</li> <li>・強みは数と式の領域、計算の復習、式の計算と図形の性質で、目標値を上回っています。課題は証明で、大きく目標値を下回っています。</li> <li>・ただし、証明するのは面白いと思う生徒が本校は58.2%と多くいます。(区全体49.6%)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>①基礎・基本の定着 直前に学習した3年の内容はよくできますが、過去の学習内容の定着が課題です。</li> <li>②活用力の向上 日常生活の中で、これは数学の授業で学習したことだと思うことがある生徒は76.7%です。(区全体67.7%)やる気を結果につなげることが課題です。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>①復習の機会を設け繰り返しの学習を実施することにより、基礎学力の定着を図ります。夏休みに補習授業を行い、1・2年の復習をします。</li> <li>②どうしてそうなるのか発言や意見交換を通して自分の考えを深めていく雰囲気と、答だけでなく途中の計算や考え方をかくことを大切にします。ワークシートを利用して個に応じて進めていけるように工夫し、意欲と自信をもたせるような授業を行います。</li> </ul>

#### (4) 理科

理科の重点	
1年	自然界の事物・現象を探求し、基礎の確立と規則性や課題解決の方法を習得させる。
2年	自然界の事物・現象についての観察・実験を通し、科学的な見方や考え方を養う。
3年	自然界の事物・現象を調べ、科学の発展と人間生活の関わりを認識させ、自然を総合的に見ることが出来るようにする。

現状分析（成果と課題）		授業改善プラン	
分析内容		指導上の課題	改善案
1年	<ul style="list-style-type: none"> <li>・小学校での学習内容は、ほぼ定着していると思われれます</li> <li>・基礎的な知識を活用していく力が不足しています。</li> <li>・問題に対し、予想をたてたり、予想理由を考えたりすることを苦手とする生徒が多くいます。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>①小学校からの学びの連続性をもっとよく考慮し、生徒の興味や関心を高める授業が必要です。</li> <li>②学習内容を論理的に考えることが苦手な生徒が多くいます。</li> <li>③実験・観察の方法が身についていない傾向があります。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>①授業の導入部で、小学校での学習内容を思い出させるような導入を行います。小学校の学習内容を考慮した年間指導計画を作成します。</li> <li>②言語活動を重視し、常になぜだろうと考えさせ、発表させる授業を展開します。</li> <li>③実験・観察の際に、小学校での既習事項の復習も行っています。</li> </ul>
2年	<ul style="list-style-type: none"> <li>・平均正答率では区の平均および目標値を下回っています。</li> <li>・「活用」の部分が特に正答率が低い傾向にあります。</li> <li>・領域では「植物の生活と分類」で特に大きく目標値を下回っています。</li> <li>・観点では「関心・意欲・態度」が特に低い正答率となっています。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>①1、2年の学習内容の基礎・基本を定着させる必要があります。</li> <li>②身近な自然の事物・現象に対して、興味や関心を持たせる必要があります。</li> <li>③実験を行い、結果をまとめ論理的に思考することが苦手な傾向が見られます。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>①質問教室を開く等して、理解できていない部分をなくしていきます。</li> <li>②既習事項復習のための小テストを随時行い、内容の定着を確実にします。</li> <li>③お互いに学び合う授業を展開し、分からないまま次に進むことのないようにしていきます。</li> <li>④実験や観察を適切に実施し、結果を表やグラフにまとめ、考察する活動を多く行います。</li> </ul>
3年	<ul style="list-style-type: none"> <li>・正答率について、昨年度より上がり、「知識・理解」は区の平均を越えたものの、「思考」「技能」は区の平均にとどきませんでした。</li> <li>・「技能」に関しては1年次の内容をふまえた問題、「思考」に関しては、日常生活と関連する問題の正答率が低かったです。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>①1・2年からの学習内容を振り返り、学びの連続性を考慮し、基礎・基本の定着を図る必要があります。</li> <li>②理科の学習内容に興味や関心をもたせ、活用する力を育成する必要があります。</li> <li>③思考する場面において、日常生活とも関連づけて考えさせる必要があります。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>①補習において、1、2年での学習内容を復習し、知識の定着を図ります。</li> <li>②都立受検に向け、学習した内容をもとに応用する力をつけるための問題演習の時間を授業のなかで効果的に設定するとともに、補習でも行っていきます。</li> <li>③活用する力をつけるために、資料等から自分の考えをまとめ、発表する時間を授業内で多く設定していきます。</li> </ul>

## (5) 音楽科

### 音楽科の重点

- 1年 音楽を楽しみ、愛好する心情を育てる。
- 2年 表現することのおもしろさを知り、積極的に表現活動を行う。
- 3年 鑑賞と表現のつながりに気づき、創造的な表現を工夫できるようにする。

現状分析（成果と課題）		授業改善プラン	
分析内容		指導上の課題	改善案
1年	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 全体的には落ち着いて授業に取り組んでいます。意欲的に自己表現できる生徒もいれば、消極的な生徒もいるので、一体感をもって取り組んでいくことが課題です。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 週1回（8月～12月は週2回）という授業形態もあり、なかなか積み重ねや反復する時間がありません。</li> <li>・ 音楽における基礎・基本を定着させ、表現につなげていくことが課題です。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 一つの領域に偏らず、歌唱・鑑賞・器楽・創作の4領域をバランスよく学べるようカリキュラムを工夫し、各領域の系統性をもたせた授業を展開します。</li> <li>・ 繰り返し学習を行い、学習内容を表現活動へと生かしていきます。</li> </ul>
2年	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 表現活動の場面では、安心して声を出し、活発で前向きに音楽を表現する生徒が増えました。共感的な雰囲気が出てきています。個々の主体性を更に伸ばしていくために、基礎基本を更に定着させ、学び合う活動に慣れることが課題です。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 基礎基本を活用する能力に個人差があります。</li> <li>・ 話し合い、学び合いの場面を増やし、個々の主体性を引き出す手立てが必要です。表現活動を牽引する生徒を育てる必要があります。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 基礎・基本については何度も繰り返すことによって、学習内容の定着を図ります。</li> <li>・ 自分の考えを根拠をもって発表し合う機会を多く作り、学習と表現の内容を深めていく工夫を取り入れます。</li> </ul>
3年	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 落ち着いて授業に取り組んでいます。鑑賞の能力が高く、感性も豊かな生徒が多いですが、表現を創り出す場面では周りを気にして遠慮してしまう面があります。お互いの良い部分を認め、積極的に自己表現できるようになることが課題です。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 以前より学び合う意識が備わってきましたが、「要領が良い」生徒が多いです。積極性を育みたいところです。</li> <li>・ パートごとの学習等、集団の中で全体をリードする生徒を育てていくことが課題です。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 自己評価や他者評価など、生徒自身が授業の中で互いに評価し合える活動を多く取り入れます。</li> <li>・ 表現活動の中で、他者と調和・共感し合いながら表現を深める活動に重きを置きます。</li> <li>・ 自主活動を意図的に計画し、支援していきます。</li> </ul>

(6) 美術科

美術科の重点 <全学年>

- (1) 楽しく美術の活動に取り組み、心豊かに創造していく意欲と態度の向上を図る。
- (2) 多様な表現方法や造形要素に関心をもち、創意工夫して美しく表現する能力を育成する。
- (3) 自然や美術作品などについて、よさや美しさなどを感じ取る鑑賞の能力の充実を図る。

現状分析（成果と課題）		授業改善プラン	
分析内容		指導上の課題	改善案
1年	<ul style="list-style-type: none"> <li>・全体的に多くの生徒は授業に取り組む姿勢は熱心で意欲的です。</li> <li>・作品の制作進度の差が大きく、遅い生徒の指導と配慮が必要です。</li> <li>・生徒によって予備知識の差で鑑賞教育に理解差が出ています。</li> </ul>	<ol style="list-style-type: none"> <li>①授業時間内に作業に計画的に取り組めず、作品が仕上がらない生徒がいます。</li> <li>②制作手順や技法について十分に理解できない生徒がいます。</li> <li>③制作進度に大きな差が生じるため、作品が完成しない生徒のための補習などの個別指導が必要です。</li> </ol>	<ol style="list-style-type: none"> <li>①生徒の実態や特長を把握し、適切な課題の設定と教材の開発（興味の広がる）に努めます。</li> <li>②アイデアスケッチなど先を見通して制作できる環境をつくり、制作の姿勢を身に付けさせます。</li> <li>③授業導入時に5分間鑑賞を行い、誰でも一から理解できる時間を作ります。</li> </ol>
2年	<ul style="list-style-type: none"> <li>・授業に取り組む姿勢ができず、私語が多く集中できない生徒がいます。</li> <li>・1時間の授業に全員が集中して取り組める授業づくりが必要です。</li> <li>・生徒の意識を高めるために、考えさせたり手を動かしたりする時間を授業内に設定する必要があります。</li> </ul>	<ol style="list-style-type: none"> <li>①作品の作業工程等、授業内容を理解する能力の差が大きく、授業に取り組む姿勢にも大きな差があります。</li> <li>②作品の制作進度に大きな差が生じるため、補習などの個別指導が必要です。</li> <li>③考えながら、先を見通して制作する姿勢を身に付けさせる必要があります。</li> </ol>	<ol style="list-style-type: none"> <li>①生徒の実態や特長を把握し、適切な課題の設定と教材の開発に努めます。</li> <li>②アイデアスケッチなど先を見通して制作できる環境をつくり、制作の姿勢を身に付けさせます。</li> <li>③授業導入時に5分間鑑賞を行い、誰でも一から理解できる時間を作ります。</li> </ol>
3年	<ul style="list-style-type: none"> <li>・全体的に授業に取り組む姿勢は真面目で、意欲的で熱心です。</li> <li>・集中力が続かず、作品が完成できない生徒が数人います。</li> <li>・作業は熱心に行いますが、創意工夫、考えることに苦手意識のある生徒がいます。</li> </ul>	<ol style="list-style-type: none"> <li>①意欲的な生徒が多くいますが、作業進度に大きな差が生じるため、補習などの個別指導が必要です。</li> <li>②作品制作は取り組みますが、制作過程の大切さ、アイデアスケッチの必要性を理解できていない生徒がいます。</li> <li>③美術に対する知識、意欲に差が出ています。</li> </ol>	<ol style="list-style-type: none"> <li>①生徒の実態や特長を把握し適切な課題の設定と教材の開発に努めます。</li> <li>②アイデアスケッチなど先を見通して制作させる時間を作ります。</li> <li>③授業導入時に5分間鑑賞を行い、誰でも一から理解できる時間を作り、日常生活の中にある美術の果たす役割にも目を向け、卒業後も美術に対する興味・関心をもち続ける意識（感性）を育てます。</li> </ol>

**(7) 保健体育科**

保健体育科の重点 <全学年>

- (1) 運動と健康の関係を意識し、準備運動やコンディション作りに取り組む習慣を定着させる。
- (2) 基礎的な身体能力や知識を身につけ、発育・発達に応じた能力を育む。
- (3) 運動の楽しさや喜びを味わわせ運動の技能を高める。
- (4) 健康・安全に留意して運動することができる態度、コミュニケーション能力を育てる。

現状分析（成果と課題）		授業改善プラン	
分析内容		指導上の課題	改善案
1年	<ul style="list-style-type: none"> <li>・基礎体力は男子が、筋力系の種目において平均を下回るが、それ以外は平均を上回る。女子は、ボール投げ以外の種目で、平均を上回っています。</li> <li>・学習や運動への意欲、関心は高いですが、知識について不十分な面もあります。</li> <li>・係やリーダー中心に学習を進めることができます。</li> </ul>	<ol style="list-style-type: none"> <li>①基礎的な身体能力の向上を図ります。</li> <li>②自発的、主体的に学習していく態度を育てます。</li> <li>③自己の課題に取り組む姿勢を育てます。</li> <li>④コミュニケーション能力の育成に力を入れます。</li> </ol>	<ol style="list-style-type: none"> <li>①種目に応じた補助運動を取り入れ、準備運動やコンディション作りに取り組む習慣を定着させます。</li> <li>②学習カードの活用で振り返りや次の授業の目標をもたせます。</li> <li>③グループ学習のモデルを示し、チームでの教え合いや話し合いを通して、係やリーダーの育成に力を入れます。</li> </ol>
2年	<ul style="list-style-type: none"> <li>・基礎体力は、男子は反復横跳びのみ平均を上回り、他の種目は平均を下回っています。女子は立ち幅跳びが平均を上回っている。一方で、握力、上体起こし、反復横跳び、50m走は平均に近いが、その他の種目は、平均を下回っています。</li> <li>・男子は関心・意欲・態度にバラツキがあり、集団行動の基本ができていない生徒も見受けられます</li> <li>・思考力・判断力・知識について不十分な面もあります。</li> </ul>	<ol style="list-style-type: none"> <li>①基礎的な身体能力の向上に課題があります。</li> <li>②主体的に学習に取り組む、自己の課題を我慢強く解決する姿勢を育てる必要があります。</li> <li>④コミュニケーション能力の育成が課題です。</li> </ol>	<ol style="list-style-type: none"> <li>①種目に応じた補助運動を取り入れ、準備運動やコンディション作りに取り組む習慣を定着させます。</li> <li>②係やリーダーを中心とした自主的な授業を進めていくことができるようにします。</li> <li>③学習カードの活用で、振り返りや次の授業の目標をもたせます。</li> <li>④グループやチーム分けに配慮し、教え合いや話し合いの機会を増やします。</li> </ol>
3年	<ul style="list-style-type: none"> <li>・基礎体力は、男子は筋力系の種目で、平均を下回るが、他の種目は平均を上回っています。女子は持久力、50m走、ボール投げで平均を下回りますが、それ以外は全国平均を上回り、特に立ち幅跳びは大きく上回っています。</li> <li>・全体的に関心・意欲・態度は概ね満足できます。</li> <li>・学習意欲は高いですが、思考力・判断力・知識について不十分な面もあります。</li> <li>・係やリーダー中心に学習を進めることができます。</li> </ul>	<ol style="list-style-type: none"> <li>①基礎的な身体能力の向上を図ります。</li> <li>②主体的に学習していく態度を育てます。</li> <li>③自己の課題を的確に理解し、課題解決に意欲的に取り組む姿勢を育てます。</li> <li>④コミュニケーション能力の育成に力を入れます。</li> </ol>	<ol style="list-style-type: none"> <li>①種目に応じた補助運動を取り入れ、準備運動やコンディション作りに取り組む習慣を定着させます。</li> <li>②係やリーダーを中心とした自主的な授業を進め、授業全体で協力し、互いに高め合う雰囲気を作っていきます。</li> <li>③学習カードの活用で振り返りや次の授業の目標を持たせます。</li> <li>⑤グループやチーム分けに配慮し、教え合いや話し合いの機会を増やします。</li> </ol>

**(8) 技術・家庭科**

技術・家庭科の重点 <全学年>

(1) 課題解決に重点を置いた学習指導を展開し、生徒が主体的に取り組む授業を目指します。

(2) 実践的・体験的な学習活動と、適切な評価をおこなうことで学習意欲を高めるようにします。

(3) 生活と知識と技能を関連させた題材により、考えて発表する言語活動を充実させます。

現状分析（成果と課題）		授業改善プラン	
分析内容		指導上の課題	改善案
1年	<ul style="list-style-type: none"> <li>授業に取り組む姿勢は、熱心で意欲的です。</li> <li>落ち着いて授業に取り組んでいます。</li> <li>実習では製作進度に個人差が大きく配慮が必要です。</li> <li>衣食住への興味はありますが、基本的な概念の理解に繋がっていない生徒もいます。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>ノートの記入や製作で個人差が大きいです。</li> <li>作品製作の体験が少ないので、作業の基礎・基本を丁寧に指導する必要があります</li> <li>表現力・発表力の向上が課題です。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>学習や製作進度が速い生徒に先生役をお願いし、遅れている生徒の手助けを行います。</li> <li>それぞれの生徒が家庭生活で役立つ収納作品の設計と製作を通じて、創造性を高めます。</li> <li>家庭生活や衣生活での重要性について重点を置きます。生活を具体的に見直すワークシート等活用します。</li> <li>衣服の単元では、素材や洗剤の性質などの実験を取り入れて、実際に目で見て体験できる活動を取り入れます。</li> </ul>
2年	<ul style="list-style-type: none"> <li>授業に取り組む姿勢は、熱心で意欲的です。</li> <li>落ち着いて授業に取り組んでいます。</li> <li>実習を面倒と感じて意欲の低い生徒もいます。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>ノートの記入や製作で個人差が大きいです。</li> <li>表現力・発表力の向上が課題です。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>技術と実生活との関連を考え、生活の中に役立つ技術について考えて発表する教材を取り入れて、言語活動を充実します。</li> <li>個別指導で、必要な支援を行います。</li> <li>生徒がつまづきやすいポイントを示しながら分かりやすく説明します。</li> </ul>
3年	<ul style="list-style-type: none"> <li>授業に取り組む姿勢は、熱心で意欲的です。</li> <li>落ち着いて授業に取り組んでいます。</li> <li>作業の中で創意工夫が苦手な生徒もいます。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>ノートの記入や製作で個人差が大きいです。</li> <li>表現力・発表力の向上が課題です。</li> <li>子どもの成長について考察する姿勢に個人差があります。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>技術分野のレポート作成を多く取り入れ、伝え合う活動を充実させます。</li> <li>家庭分野に幼児とのふれあい体験を取り入れ、伝えたり実践したりしていく活動を充実させます。</li> </ul>

(9) 英語科

英語科の重点			
1年	①基本的な学習態度の定着と学習意欲の向上	②基礎学力の定着	③言語活動の充実
2年	①基本的な学習態度の定着と学習意欲の向上	②基礎学力の定着と向上	③言語活動の充実
3年	①基礎・基本の徹底と学習意欲の向上	②自律的な学習の推進	③言語活動の充実

現状分析（成果と課題）		授業改善プラン	
分析内容		指導上の課題	改善案
1年	<ul style="list-style-type: none"> <li>小学校における外国語活動により、英語学習に前向きに取り組む姿勢があります。一方、中学校で教科としての英語が始まり苦手意識をもつ生徒もいます。</li> <li>小学校で扱ったことのある言語材料については、「聞くこと」「話すこと」の活動を抵抗なく行うことができます。</li> <li>小学校で「書くこと」がなかったため、書く力が弱いです。アルファベットの特に小文字を正確に書けない生徒もいます。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>基本的な学習態度が定着していない生徒も一部います。</li> <li>小文字のbやdの区別ができない生徒がいます。</li> <li>言語活動では自信を持ってコミュニケーションをとることが苦手な生徒もいます。</li> <li>英作文に苦手意識を持つ生徒が多いです。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>基本的な学習態度、習慣の定着を図るため、辞書指導を行い、自主的な家庭学習のためノート指導を重点的に行います。プリントは、授業で何度も使用するように構成し、テストでも必ず出題するなど、なくすことがない習慣とサイクルを作っていきます。</li> <li>「書く」力や学習内容の定着、活用力をつけるために、Sectionごとに教科書本文の要約・再構成と発表（reproduction）やスピーチなど、自己表現活動の場面を設けます。</li> </ul>
2年	<ul style="list-style-type: none"> <li>教科の正答率は、基礎は区平均より高いが、活用は区平均より1%低いです。</li> <li>領域別・観点別正答率では、理解・知識で区の平均値をクリアしているが、表現の能力が1%低いです。</li> <li>区の学力調査、都の学力調査ともに「表現の能力」に課題があることが分かります。</li> </ul>	<ol style="list-style-type: none"> <li>基礎的・基本的な知識を基に発展的な内容を解く力が身につけていない。</li> <li>家庭学習の習慣が身に付いていないため、課題の未提出者も多数います。</li> <li>書くことを面倒くさがる傾向があります。また、表現に必要な語彙力が乏しい傾向にあります。</li> </ol>	<ol style="list-style-type: none"> <li>毎時間基本本文の小テストを今後も継続して行う。</li> <li>英語検定などより自分の力を高めていくような機会を推奨し、定期考査などでも興味を持って長文を読み解くような問題を作成していく。</li> <li>活用力をつけるために、「話す」活動の後には「書く」時間を設けます。スピーチやプレゼンテーションの実施により、表現の能力を高める工夫をします。</li> </ol>
3年	<ul style="list-style-type: none"> <li>教科の正答率は、基礎も活用も区平均をやや上回っています。</li> <li>活用の「思考・判断力」は区の平均値をやや下回っています。</li> <li>観点別正答率では、「外国語理解の能力」が区の平均をやや下回っているため、長文読解力に力を入れる必要があります。</li> </ul>	<ol style="list-style-type: none"> <li>基礎的・基本的な知識習得を活用するための反復練習が不足しています。</li> <li>単語を読めないから意味がわからず、読解に必要な語彙力が乏しい傾向にあります。</li> <li>家庭学習の習慣が定着できていない状況があります。</li> </ol>	<ol style="list-style-type: none"> <li>フォニックス（綴り字と発音の規則性）を取り入れ、語彙力を強化していきます。</li> <li>短めの長文問題を毎時間解くことにより、語彙力を高め、文法事項も復習しながら、基礎力の定着を図ります。</li> <li>学習ノートを活用した学習方法を提示し家庭学習を促し、基本的な学習態度・習慣の定着を図ります。</li> </ol>

